

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議での研修でバISTYク7原則の意味を考え、理念とホーム目標にどう結びつけられるか自身で考え、評価している。	玄関にグループホーム理念と目標が掲げられている。職員には新規採用の時に個別で説明し、レポートの提出を義務づけている。職員は理念を理解し自分の言葉として具体的に話すことができ、利用者が何を希望しているのかを考えながら笑顔で明るく、支援している。理念にそぐわない行動が見られた時は定例会で話し合いをしたりお互いに注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	来訪者がいつでも訪ねてもらえる環境や雰囲気作り心掛けています。今年度初めて区民対象の消火訓練に参加し、地元消防団との交流を図った。	敷地周辺には民家は少ないが日帰りのレジャー施設が点在している。歌やアコーディオン、パン、折り紙等のボランティアの定期的な訪問があり利用者の楽しみとなっている。中学生のサマチャレ体験や大学生の体験受け入れなどが行われている。昨年は初めて地区の消防訓練や商工会主催の「商工祭」に参加した。商工祭ではスライド等も披露した。地元の利用者が増えたことから着実に地域に根付いている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の方から身近な方での相談があった際など、窓口として相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者や人数の増減はないが、同じ参加者であるため、課題や運営に関してもご理解や、ご意見もいただきやすくなってきた。	2ヶ月に1回、家族、区長、民生児童委員会会長、村職員、地域包括支援センター職員の参加を得て行われている。現状報告と活動報告、意見交換をしている。外出時のボランティアの件や非常口の改善の提案等、有意義な意見があり運営に活かしている。家族の参加を増やそうと開催日を土曜日にしたこともあり、より多くの家族が会議に参加できるように検討を重ねている。開催案内も委員の都合を調整し郵送でお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際にホームの状況を伝え、行政の担当者はホームの様子をよく理解していただいている。地域ケア会議に出席した際には情報ももらっている。	地域包括支援センターから紹介の利用者の場合には利用後も連絡を密に行っている。介護保険の更新の申請は多くの家族がそれぞれ(3市町村)に提出し、住所地の役場から調査にみえている。家族同席の方もいるが大半は職員が利用者の現況を伝えている。開設から6年が過ぎ、指定更新の一環として平成26年11月に村より支援方法、ケアプラン点検等の指導をいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者への身体拘束は実施していない。センサー使用の利用者は記録を取り、外していく為の検討をしている。	玄関の鍵は夜間のみで日中は開錠している。ベッド柵による拘束は全くしていない。利用者が入院先より戻った時に転落・転倒防止のため家族了解のもとセンサーマットを使用し、様子を見ながら職員会議で話し合いをし、センサーマットの使用や外す判断などをすることもある。	

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し職員会議で勉強会を実施した。不明外傷は事故報告にて報告し経過観察に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が会議での研修を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族と文書による契約書を交わしている。その際、疑問点などはその場で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各玄関にご利用者の日頃の写真を掲示し、職員からも日頃の様子を伝えている。	原則、料金の支払が(自動振り替えも可能)窓口支払いのため少なくとも1ヶ月に1回は家族の訪問がある。来訪時には利用者の近況やケアプランに関する話などとし、家族の意見を聞いている。夏には同じ敷地内の特別養護老人ホームと老人保健施設がそれぞれ夏祭りを開催し、ホームもユニット毎で各施設の祭りに参加している。夏祭りの家族参加が多く、今後は夏祭りに家族会を行えるように調整していきたいという思いもある。ホーム便りを訪問時に手渡し、話題とし取り上げ意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議でご利用者の支援方法や様子などを報告し、職員間での情報交換の場としている。	2ユニットあるが職員の固定化はされていない。月1回の定例会も全職員で行われている。法人からの諸連絡や業務に関する連絡、内部勉強会、研修参加者の伝達研修他、職員の意思統一をする場として活用されている。1時間の中で昨年まではケアプランに関する話し合いも行われていたが今年から切り離れた。職員全員がお互いを必要とし一緒に考える姿勢を窺うことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの申し出があった際は都度面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には期間を決めて研修をし、実習記録から指導方針を決めている。研修期間は研修担当を決めて同じ業務に入り指導をしている。外部の認知症ケアの研修にも参加している。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺GHネットに参加し、他施設との情報交換の場としている。また村内の宅老所とは年に3回交流を継続している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族にホームを見学してもらっている。事前にご本人や家族の不安な事を聞く事で入居してからの生活に配慮できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前であっても、来訪時や電話等での問い合わせに応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にホームだけでなく状況に応じて他施設や法人内の事業所に移る事が可能である説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の得意な事、不得意な事などを理解し、その時の状況の応じた支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を築き、継続していける関係性に配慮している。来訪時にはゆっくり話せる環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	久しぶりの来訪者の際は、写真を撮り居室に掲示している。来訪者のお見送りは職員も一緒に行っている。	独居の利用者が時々留守宅に帰り、仏壇にお経をあげたり近所の方へ挨拶に行ったりしている。年賀状も家族の許可を得てから家族や友人に出した方もいる。字の書ける方は字を書き今年は全員その他に拇印を押して出したという。お盆やお正月に外泊や帰宅をしてお祝いなどをされた方もいる。今でも秋になると遠くの親戚に地元産の美味しいりんごを送っている方もおり、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ村民同士が居室で談笑したり、棟が違っても遊びに出掛けたりとご利用者同士の交流が増えてきた。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣の施設をご利用されている際には、ホームでの馴染みの美容院を利用している。ご家族が他利用者の様子を見に来訪される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日1回は一人一人のご利用者と向き合いゆっくり話をできる時間を大切にしている。その際の内容は記録したり、申し送りでご報告している。	ほとんどの方が自分の意思を言葉やしぐさ、表情で伝えることが出来る。医師や家族の了解のもと毎晩、晩酌のビールを楽しんでいる方や自分のペースで1日を過ごされている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供してもらい、全職員が共有し、ケアにあたっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス計画に沿った支援を中心に心掛け状況が変わった際はカンファレンスで話し合いを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員はカンファレンスに参加し、他職員の意見を聴き、評価の参考としている。ご本人やご家族の話しを踏まえ介護計画を作成しており、ひもときシートやセンター方式を活用する事もある。	利用者1名に職員3名の担当制としている。今年から担当者会議を職員会議から切り離れた。カンファレンスを行う時は全職員に声をかけている。時間の余裕が出来たことで意見の幅が広がった。日常の会話から利用者の希望などを拾い上げ作成した計画を本人にも説明している。3カ月毎に評価し必要な場合は見直し、現状に沿った介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書をケース記録の記入時に確認しながら記載でき、評価できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の今して欲しい事は何か。どうしたら今対応ができるのかを常に考えてケアにあたっている。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独居のご利用者への留守宅外出支援は継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も継続しており、ご本人と主治医との信頼関係を大切に支援している。受診に際しては、隣接の看護師に相談する事もある。緊急時の搬送先はあらかじめ決めてある。	かかりつけ医は継続されている。基本的に通院は家族の付き添いをお願いしている。緊急時は職員が付き添い家族には病院に向いていただいている。家族より依頼され通院の付き添いをした時は、同行した職員が家族へ受診後の報告をしている。予防接種は家族にお願いして全員が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は病状報告書として主治医に情報提供している。ご家族からの依頼があれば、職員も同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は職員も同行し、病状説明を行う。主治医にも入院中の様子を伝えている。退院の許可が下りた際は速やかに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意志を尊重し、医療、ご家族、職員での連携を取りながら対応している。病状がかわった都度話し合いの機会を設けている。	開設より3名の利用者の看取りが行われた。利用者や家族の意向を聞きながら、その都度、家族、医師、訪問看護師、職員で話し合いを行っている。昨年、往診していただいた医師から職員に看取りに関わる話があり、職員も気持ちが楽になり看取りに対する怖さが薄らいだという。家族への経過報告の手順なども取り決めて対応した。病気利用者へのお見舞いをしたり、亡くなってからも居室でお参りしお見送りは全員で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、緊急時のマニュアルを作成しており、隣接の医師、看護師、理学療法士への相談や診察も可能な体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春、秋の年2回ホーム単独と三施設合同の避難訓練を実施している。消防署立ち合いのもと、指導を受けている。	年2回避難訓練が行われている。防災委員が訓練を計画し事前の話し合いや確認をし訓練に臨んで。消火器の使い方、消防署への通報訓練、職員の連絡網使用での伝達訓練などが行われている。訓練後、職員個々に「避難訓練レポート」を提出し、次回への改善に繋げている。今後自然災害のマニュアルを作成していきたいとの意向もある。備蓄は併設の施設で保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修で社会人の心得、バイステックについて勉強会を実施し、職員間でもその時の対応や声掛けなど適切であったかなどお互いに意見交換できる関係性を築いている。	勉強会などで接遇に関する勉強を行い理解している。今までいろいろな経験を重ねてきた人生の先輩として傷つけることなく言葉がけに注意をしている。基本は名前に「さん」づけで呼んでおり、家族が「ちゃん」と呼び家族からも「どうぞ」と言われても節度ある対応をしている。食事の時、汚れないように掛けるエプロンは人目を引くので、なるべく使用しないで食べられるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人一人の思いを言える環境を考慮し、自己決定できる声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々でご利用者のしたい事を支援し、見守りしている。職員間の伝達や報告を徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後には、一緒に洋服を選び、さわやかな1日を過ごせる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事環境を一緒に整え、献立の話しや食材の話しなどしながら進めている。	管理栄養士が作った献立が併設施設厨房から届けられる。利用者のその日の状況でとろみをつけたり刻んだり変えている。テレビなど見ながら利用者が発する「ラーメン食べたい」との声を聞き、翌日の昼食にホーム独自にラーメンを18名分作り食べることもある。訪問した日もすいとんを独自の献立とし利用者と一緒に作っていた。利用者が「これはすいとんじゃない。ひんのべ(郷土食ですいとんのことだ)と和気あいあいと食べていた。野沢菜漬け、梅漬け、こねつけ(郷土食でごはんと小麦粉混ぜ焼いたもの)など、利用者と職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおよそご利用者の食事量や水分量は把握しており、食欲が低下した場合はチェック表で管理し医療へつなげている。食の細かい方は他の食事に対応する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状況に応じて対応している。一日の中でもお茶などの水分が進む工夫をしている。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおよそご利用者の排泄パターンは把握しており、チェック表にて全職員が一目でわかるようにしている。その方にあわせた排泄を実施している。	自立している方、リハビリパンツやオムツの方など、個々の対応をしている。紙パンツから布パンツ、布パンツから紙パンツに変わる時には利用者に確認しながら様子を見ている。トイレへの誘導もプライバシーに配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服管理と共に、リンゴ煮や乳製品また散歩などの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その方の入りたいタイミングで入浴していただいている。一人でゆっくりと入浴できる支援をしている。	お風呂の蛇口が3個あり2個は一般家庭と同じ水とお湯、残る1つは温泉が出てくる。毎日温泉のお風呂の用意がされ3名ほどの方が入っている。ベッドに入浴日の予定を書き、吊るしている利用者もいた。お風呂を嫌がる方は現在おらず、ゆず湯や菖蒲湯など季節のお風呂も行っている。仲の良い利用者同士と一緒に入ったり、シャワーのみの方等、ゆっくり入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休む事のできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が内服になるまで3人の職員が関わり安全に内服してもらうようにしている。その方に適した内服方法を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の気分転換の方法を理解し、なるべく実践できるよう支援している。食事席を変えたり、隣棟で食事をされる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩や買い物、他施設交流、さくらんぼ、梨狩りなど外出の機会を増やしてきた。恒例の善光寺参拝は16名の方が参加できた。	暖かくなると毎日交代で散歩に出かけている。手押し車や車椅子でお花見、買い物、温泉の足湯、外食(回転寿司・そば処・ラーメン屋など)に出かけている。独居からの利用者の自宅を他の利用者も訪問し、様子を確認したりすることもある。10月の善光寺へのお参りは交替で5日位かけ、病気の方を除き全員が参加することができた。	

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でおこづかいとして管理している方や必要時お渡しする方もおり、ご自分で支払をする楽しみを支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供に電話を入れたり、写真を送ったりGH便りを送付し、近況をお知らせしている。年賀状は家族だけでなく、ご本人が希望する方全員に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでの環境づくりやご利用者間の会話の橋渡しを行い、自室では他利用者を招いてお茶会を開いたり、来訪者があった際は一緒に話しをしたりする時間を設けている。	玄関には理念と目標が掲げられ、利用者のスナップ写真、書き初め、職員の名前の付いた写真が飾られている。室内は床暖房で外の寒さとは無縁であった。室内から眺める遠くの山や近くの山が重なり合っただけで冬の美しい写真を見ているようだった。テーブル、ソファが配置され利用者は好きな場所でおしゃべりやテレビを見ていた。利用者は暮らし慣れた四季折々の自然や環境の中で落ち着いて日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽を楽しみたい方、体を動かしたい方、読書をしたい方などご本人の希望に合わせて環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意志やご家族と相談の上、今必要な物を持ち込んでいただいている。各居室はご本人の希望を配慮し、ご家族にもご理解いただいている。	ベッドと布団は備え付けで、そのほかは利用者や家族が持ち込み、使い勝手の良いように居室作りがされている。子供や孫、ひ孫の写真に加えお気に入りの広告や職員からの感謝状を壁に飾られている利用者もいる。すぐに読めるようにベッドの上に本が整然と並べられた居室も見られた。職員に頼んで独自の日めくりカレンダーを掲げている方もいた。一人ひとりの、個性あふれる生活空間に感心してしまった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活物品などの置き場は誰でもわかるように設置している。ご利用者が必要な際は気兼ねなく持っていけるように配慮している。		